

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業(都道府県広域捕獲活動支援事業)鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業及び鳥獣被害防止対策促進支援事業(中山間地域等鳥獣被害防止施設整備事業)の評価報告(令和4年度報告)

1 被害防止計画の作成数、特徴等

被害防止計画は県内43市町村のうち、42市町村が作成済みである。

対象鳥獣は、それぞれの市町村の状況に応じて設定されており、獣類ではイノシシ・シカ・サル・タヌキ・アナグマ等、鳥類では、カラス・ヒヨドリ等が多い。

2 事業効果の発現状況

推進事業、整備事業、緊急捕獲活動支援事業の活用により、イノシシによる被害が前年度より約9,3千万円、シカによる被害が約1,7千万円、カラスによる被害が約4,2千万円減少した。

推進事業では、被害防止対策研修会の開催やICT機器、捕獲機器の整備、狩猟免許取得者の確保、緊急捕獲活動支援事業では、有害鳥獣の捕獲活動経費の支援等により「(鳥獣を)寄せ付けない」「個体数を減らす」対策が進められている。また、整備事業では、電気柵等の整備により「侵入を防止する」対策が進められている。

3 被害防止計画の目標達成状況

「寄せ付けない」「侵入を防止する」「個体数を減らす」という3つの取組を柱に被害防止対策を進めた結果、県全体の農作物等への被害は減少したが、侵入防止柵等の設置ができていない地域での被害の増加により目標の達成に至らない市町もある。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主 体	供用 開始	利用 率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価													
										被害金額(千円)			被害面積(ha)																		
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																
枕崎市鳥獣被害対策協議会	枕崎市 全域	R2	イノシシ シカ アナグマ タヌキ カラス	有害捕獲 被害防除	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 1人 箱わな(小) 5基 被害防除教材(DVD)	協議会		100%	特に山との境界付近のほ場で、イノシシ、アナグマによる甘しょの被害が多発していたことから、緊急捕獲活動支援事業を活用し山中や進入路付近に箱ワナやくくりワナを設置し猟友会が有害捕獲を行うとともに、集団化のほ場を囲うように農家が参加して侵入防止電気柵を設置した。 これらの取組により、本市におけるイノシシの有害捕獲頭数は55%増加、アナグマの有害捕獲頭数は64%増加した。	1,366	2,126	△30%	11.3	2.1	296%	被害金額については目標を下回ったが、被害面積については大幅に減少した。 このことは、猟友会員の協力により有害捕獲が進んだこと、農家主体による電気柵設置により確実に被害が抑えられている一方で、生息地域及び被害地域が全域に広がっていることから、電気柵等の設置が取れていない地域の被害対策が課題である。	推進事業にて箱罠を購入しているが、捕獲実績が上がっていないととのことであった。設置場所、誘引餌、設置方法等いくつかの要因が考えられる。一部の要因については、同事業で購入したセンサーカメラを活用することで検証を行うこともできる。新規の狩猟免許取得者に対しては、猟友会による研修によって捕獲技術の継承が行われていた。技術の向上、後継者の育成に期待したい。 整備事業で導入している電気柵は、非耕作期や日中の運用が重要である。そのため、既存の設置柵を対象として設置や撤去の時期や、通電させている時間帯等について適正に運用されているか再確認することが望ましい。 有害捕獲は、年間を通じた指示は出されていないが、猟期中には被害の発生に応じて場所や期間を限定して運用しており、効率的な対応が行われていた。 現行の計画には、ヒヨドリは対象鳥獣に含まれていない。次期計画では対象とすることで、事業が活用できるようになる。被害防止計画の被害金額は目標を達成できていないが、被害面積は達成できている。他の市町村の事例を参考にしながら、共済金の支払いを用いる等、より客観的に算出できる方法を用いることが望ましい。	目標年(R4)において、イノシシによる被害面積は目標に対し約16%と減少したものの、被害金額は30%増加している。 整備事業等により、電気柵等の設置が地区ごとに計画的に行われているが、鳥獣等の生息域を区分するような広域的な対策も検討すべきではないか。													
				鳥獣害防止施設	電気柵(2段)1地区 4,372m	組合		100%																							
				緊急捕獲	イノシシ 162頭 イノシシ(幼) 12頭 タヌキ 5頭 アナグマ 146頭 カラス 118羽	-		100%																							
				有害捕獲	箱わな(中) 7基	協議会		100%																							
				鳥獣害防止施設	電気柵(2段)1地区 4,660m	組合		100%																							
				緊急捕獲	イノシシ 143頭 イノシシ(幼) 3頭 タヌキ 7頭 アナグマ 214頭 カラス 268羽	-		100%																							
		R4	有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 4人 箱わな(中) 2基 監視用センサーカメラ 1台	協議会		100%																								
			鳥獣害防止施設	電気柵(2段)1地区 3,000m	組合		100%																								
			緊急捕獲	イノシシ 252頭 イノシシ(幼) 5頭 シカ 1頭 タヌキ 13頭 アナグマ 240頭 カラス 333羽	-		100%																								
			指宿市鳥獣被害防止対策協議会	指宿市 全域	R2	イノシシ シカ アナグマ タヌキ ノウサギ カラス ヒヨドリ スズメ トバト カモジ	有害捕獲 被害防除	免許取得事前講習会受講料補助 3人 協議会費											協議会		100%	事業の取組により、令和2年度から令和4年度にかけて、新たに17人が狩猟免許を取得し、有害鳥獣捕獲隊員の確保につながっている。 捕獲報奨金の支給により、捕獲活動を活発に行うことができている。	8,456	12,997	△25%	1.9	6.3	△437%	関係機関と連携し、生産者や地域住民に対して鳥獣被害防止対策研修会を開催するなど鳥獣被害対策についての普及・啓発を図ることができている。引き続き研修会を行うことで行政主体ではなく、住民が主体となった鳥獣害に強い集落づくりを進めていく必要がある。 ICT等新技術実証としてドローンを利用したヒヨドリの追い払い実証試験を行い、少ない労力での追い払いの手段としては有効と考えられたが、狙いどおりの結果を得ることはできなかった。 今後もICT等新技術等の活用により、効果的な被害対策について検証していきたい。 イノシシについては、被害防止計画の目標を達成していた。その他の獣種については、目標の捕獲計画数等には達していないものの、捕獲体制の整備により、効率的に捕獲できている。今後も捕獲従事者に対する支援を行い、効果的な取組を行っていきたい。	推進事業の活用で狩猟免許の新規取得者が増加しており、捕獲の担い手としての活躍が期待される。継続した免許の所持と捕獲数増加のために、免許取得後の支援体制の構築が重要である。 整備事業は条件が合致せず活用はないが、市単独の助成や県の補助事業によって電気柵が導入されていた。効果的な運用のためにも、設置後に適正に管理されているか把握することが望ましい。 被害防止計画の目標達成にはヒヨドリによる被害を軽減させることが最重要課題となっている。農地の規模や立地、作物によって対策の種類が異なる。それぞれの状況に応じて環境整備、侵入防止、捕獲を選択、組み合わせでの対応が求められる。かずみ網を使用した捕獲についても検討を始めており、導入に至れば新たな被害対策として注目を浴びると考えられる。一方で、防鳥網や果実の被覆等の既存の手法で被害を抑えられる農地もあることから、捕獲にのみ頼らず状況に応じた対策の選択が重要である。	目標年次(R4)において、ヒヨドリによる被害面積及び被害金額が大幅に増加したことから、目標値の達成に至っていない。 ヒヨドリ対策については、様々な取組がなされているが、早急に解決出来ることでもないで、現時点で出来ることを確実に行うことが重要に思う。 一方、イノシシについては、指宿市単独事業等により電気柵等の設置が進み、被害防止の効果が現れている。
							緊急捕獲	イノシシ 338頭 イノシシ(幼) 44頭 シカ 31頭 アナグマ 225頭 タヌキ 71頭 カラス 440羽 ヒヨドリ 1,675羽											-		100%										
							有害捕獲 被害防除	免許取得事前講習会受講料補助 7人 協議会費											協議会		100%										
緊急捕獲	イノシシ 370頭 イノシシ(幼) 35頭 シカ 41頭 サル 1頭 アナグマ 171頭 タヌキ 48頭 カラス 417羽 ヒヨドリ 579羽	-					100%																								
有害捕獲 ICT等新技術の活用 被害防除	ICT等新技術実証 免許取得事前講習会受講料補助 7人 ドローンを活用した鳥類防除技術実証 協議会費	協議会					100%																								
緊急捕獲	イノシシ 405頭 イノシシ(幼) 22頭 シカ 49頭 アナグマ 166頭 タヌキ 66頭 カラス 183羽 ヒヨドリ 112羽	-					100%																								

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価														
										被害金額(千円)			被害面積(ha)																			
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																	
長島町有害鳥獣捕獲対策協議会 (長島町)	長島町 全域	R2	イノシシ シカ タヌキ カラス ヒヨドリ ドバト	有害捕獲	イノシシ用箱わな(大) 11基 くくりわな 115基 生息調査用GPSカメラ 1基	協議会	-	100%	山間の農地において、イノシシによるバレイショ、甘藷等の野菜類の被害が多発していたことから、緊急捕獲活動支援事業を活用し山中において猟友会が有害捕獲を行うとともに、被害が多発している農地においては侵入防止柵を設置。進入路となる道路に箱わなやくくり罠を設置。GPSカメラやイヤータグビーコンを活用し、イノシシの行動域を調査し猟友会と連携し、捕獲の効率化を図った。これらの取組により、本町におけるイノシシの有害捕獲頭数は令和元年度ではイノシシで500頭、令和4年度ではイノシシで1,003頭となっている。	2,230	3,497	△33%	1.5	1.1	153%	推進事業及び整備事業を一体的に取り組んだ結果、イノシシ被害については確認次第、迅速に対応が出来るようになり被害が深刻化せず目標は達成しなかったものの、一定の効果があつたため、引き続き整備事業・推進事業を一体的に取り組む。 カラスについては、目標は達成しなかったものの被害金額は減少しており、今後はカラス捕獲機導入による捕獲強化を図る。 ヒヨドリについては、近年被害が発生していることから被害が大きい地区では防鳥ネット等による被害防止を図る。	(一財)鹿児島県環境技術協会 環境調査部環境生物課専門員 稲留陽輔氏	推進事業及び整備事業を一体的に取り組んでおり、目標は達成していないものの一定の効果が見られた。また、民間の実施隊員によってイノシシの捕獲の成果があがっている。 今後は、シカの定着がないように警戒するとともに、カラスやヒヨドリへの対応も求められる。														
				鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵3地区 9,844m	組合		R2											100%													
				緊急捕獲	イノシシ 269頭 イノシシ(幼) 117頭 カラス 5羽	-		-											100%													
		R3		有害捕獲	イノシシ用箱わな(大) 19基 生息調査用機材イヤータグビーコン一式	協議会	100%																									
				鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵2地区 3,122m	組合	R3	100%																								
				緊急捕獲	イノシシ 392頭 イノシシ(幼) 68頭 シカ 2頭 カラス 12羽	-	-	100%																								
		R4		有害捕獲	イノシシ用箱わな(大) 18基 くくりわな 1基	協議会	100%																									
				鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵2地区 3,120m	組合	R4	100%																								
				緊急捕獲	イノシシ 353頭 イノシシ(幼) 44頭 シカ 1頭 カラス 10羽	-	-	100%																								
		始良市鳥獣被害防止対策協議会		始良市 全域	R2	イノシシ サル アナグマ タヌキ ノウサギ カラス ヒヨドリ スズメ	鳥獣被害防止施設	電気柵(4段)1地区 17,520m											組合	-	100%	整備事業を活用し侵入防止柵を設置した箇所においては、圃場への鳥獣の侵入を許すことなく、農作物被害を防ぐことができている。 また、森林伐採や開発等により、野生鳥獣の行動域が人里に近くなっている現状はあるが、一方で隣接する市町村から流入する個体(特にシカ)数の増加については、緊急捕獲活動支援事業を活用し抑制できている。 推進事業による生息環境管理事業実施箇所においては、サルが餌場として近寄りなくなり、今まで被害のあつた地域においてはサルの滞在期間が短くなり被害も軽減されている。	1,203	6,461	△923%	2.7	5.4	△108%	(合)南九州野生動物保護管理センター 代表 浅井 隆之氏	近年、山間部の開発や森林伐採等により、野生鳥獣の行動域が人里に近くなり、また隣接する市町村から流入する個体(特にシカ)数が増加傾向にあるが、緊急捕獲活動支援事業を活用し、捕獲することで個体数を抑制することができている。 整備事業については、侵入防止柵を設置した地域は農作物(主に水稲)被害を防ぐことができているため、今後も継続して年次、計画的に整備を進めていくことで、市全体の被害の減少が見込まれる。 推進事業については、令和3年度、4年度に蒲生町の漆地区で生息環境管理事業(放任果樹を伐採しサルを寄せ付けない環境づくりを行う)を実施し、事業実施箇所においては、サルが餌場として近寄りなくなり、今まで被害のあつた地域のサルの滞在期間も短くなり被害も軽減されている。	既存の捕獲方法だけでなく、IGTを用いた捕獲方法をより積極的に使うと効果的な対策につながると思われた。 放任果樹の伐採事業はサル以外のすべての鳥獣に対して非常に有効なので、今後も適用地域を拡大し積極的に行う必要があると感じた。 シカの被害は今後増えていくことが予想されるため、より一層防除を強化していく必要を感じた。	
							緊急捕獲	イノシシ 426頭 イノシシ(幼) 128頭 シカ 670頭 サル 50頭 アナグマ 9頭											-		R2											100%
							有害捕獲 ICT等新技术の活用 生息環境管理	箱わな(大) 2基 IGT付き箱わな 1基 放任果樹伐採											協議会		100%											
R3	鳥獣被害防止施設		電気柵(4段)1地区 19,360m 電気柵(4段)1地区 20,360m		組合		100%																									
	緊急捕獲		イノシシ 409頭 イノシシ(幼) 101頭 シカ 1,039頭 サル 27頭 アナグマ 9頭 タヌキ 1羽 カラス 5羽		-		R3	100%																								
	有害捕獲 生息環境管理		箱わな(中) 3基 放任果樹伐採		協議会		100%																									
R4	鳥獣被害防止施設		電気柵(2段)1地区 9,348m		組合		100%																									
	緊急捕獲		イノシシ 483頭 イノシシ(ジビエ) 12頭 イノシシ(幼) 102頭 シカ 911頭 シカ(ジビエ) 16頭 シカ(幼) 3頭 サル 15頭 アナグマ 6頭 カラス 3羽		-		R4	100%																								

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価													
										被害金額(千円)			被害面積(ha)																		
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																
鹿屋市鳥獣被害防止対策協議会	鹿屋市全域	R2	イノシシ シカ サル アナグマ タヌキ カラス ヒヨドリ	有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 25人	協議会		100%	特にイノシシについては、集落と山の境界で、飼料作物や甘藷、水稲における被害が多発していることから、猟友会と連携し、猟友会が有害捕獲を行うとともに、集落を囲うように山際に侵入防止柵を設置している。また、住宅周辺の畑地等における鳥獣被害(イノシシ、タヌキ、アナグマ)については、市が箱ワナを設置し、有害捕獲を行っている。これらの取組により、鹿屋市においては、R4年度鳥獣における農作物被害額は、前年度に比べ約18%減少した。(R2: 8,099千円、R3: 7,037千円、R4: 5,747千円)	6,023	5,747	111%	45.9	5.1	307%	被害額は減少しているものの、被害額が最も多いイノシシについては、減少していない。イノシシについては被害が多い地域を中心に侵入防止柵の設置や捕獲等を進めていきたい。また、捕獲頭数等の地図化やICT技術の活用を進め、効率的な鳥獣管理の強化を図って行きたい。	鹿屋市(平成29年度)と比較して被害金額の合計では約280万円の減少(達成率111%)となっていることから、被害は軽減していると考えられる。しかし、獣種別で見ると、被害額が減少したのはニホンザルとタヌキのみであり、被害金額の最も多いイノシシについては減少していない。イノシシについては被害が多い地域を中心に集落点検を実施し、侵入防止柵の設置と計画的な捕獲をさらにすすめていきたい。サルについては、捕獲数が増加しているが、群れ管理に基づいた計画的な捕獲を行っていただきたい。すなわち、群れの把握と各群れの加害レベルの評価を行い、捕獲オプションを検討すべきである。	令和4年度実績で被害金額については111%の達成で被害面積も307%の達成で被害は軽減しており、大きな効果が得られているので引き続き総合的な被害防止対策に務めていただくとともに、イノシシの被害は増加しているため重点的な対策を検討していただきたい。													
				鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵2地区 5,200m 電気柵(2段)2地区 1,500m サル用複合柵1地区 900m	組合		100%																							
				緊急捕獲	イノシシ 302頭 イノシシ(幼) 45頭 サル 158頭 タヌキ 702頭 アナグマ 280頭 カラス 1,020羽	-		100%																							
				有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 25人 箱わな(大) 10基 箱わな(小) 6基	協議会		100%																							
				鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵9地区 9,650m 電気柵(2段)2地区 1,350m	組合		100%																							
				緊急捕獲	イノシシ 858頭 イノシシ(幼) 49頭 シカ 2頭 サル 150頭 タヌキ 899頭 アナグマ 341頭 カラス 928羽	-		100%																							
		R4	有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 14人 箱わな(大) 5基 箱わな(小) 5基	協議会		100%																								
			鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵9地区 18,430m 電気柵(2段)4地区 4,340m	組合		100%																								
			緊急捕獲	イノシシ 682頭 イノシシ(幼) 59頭 シカ 5頭 サル 60頭 サル(幼) 1頭 タヌキ 1,054頭 アナグマ 405頭 カラス 950羽	-		100%																								
			東串良町鳥獣被害対策協議会	東串良町全域	R2	イノシシ サル アナグマ タヌキ	有害捕獲 被害防除	箱わな(大) 6基 箱わな(中) 9基 自動撮影カメラ 6台 電気止めさし器 1式 研修会の開催											協議会		100%	岩弘地区・川東地区でイノシシ等による収穫時期の水稲や甘藷等被害が多発しており、加えて有害鳥獣捕獲従事者の高齢化等に伴い、捕獲率が減少傾向にあったことから、本事業を活用し、被害の軽減と併せて捕獲従事者の確保・育成に取り組むこととした。捕獲用の箱わな等の導入により、被害発生時の主な鳥獣であるイノシシの捕獲頭数は事業実施以前(H28年5頭、H29年2頭、H30年8頭)に対して大幅に上昇した(R2年16頭、R3年4頭、R4年27頭)。また、狩猟免許資格保有者が4人増加し、後継者の育成という面においても効果があったと考えられる。	7	710	△17.475%	0.04	1.5	△4.767%	有害鳥獣対策の体制整備や、それによる捕獲数増加は達成したが、依然として鳥獣による農作物等への被害が発生しているため対策を継続する必要がある。事業実施前に比べて住民の鳥獣対策意識は向上したと思われるが、対策の効果をもっと高める為、一人一人が自分事として捉え、集落ぐるみで対策を実施していける地域づくりを行う必要がある。	鹿屋市(平成29年度)よりイノシシの被害金額が増加しているが、近年、イノシシの集落への出没が増加し、被害が目立つようになったことが原因と考えられる。効果的な被害対策を行うために、捕獲や防護柵の設置と併せて集落点検を実施していただきたい。どのような場所から動物が侵入し、被害が発生するのかを可視化し、地域住民と共有することで、より効果的な対策が実施できると期待される。サルについては、被害が家庭菜園に限られているものの、動物を地域に寄せ付けないための意識づけが重要である。住民を対象とした研修会を実施するなどの取り組みもすすめていただきたい。また、野生動物管理に関する知識、技術を有する専門職の人材育成にも取り組んでいただきたい。	イノシシでの集落被害が顕在化、増加しているため、寄せ付けないための対策を講じるなど集落での対策を検討していただきたい。
							緊急捕獲	イノシシ 11頭 アナグマ 2頭 タヌキ 12頭											-		100%										
					有害捕獲 被害防除		狩猟免許取得事前講習会受講料助成 2人 自動撮影カメラ 4台 追い払い用トランシーバー 5台 先進地研修	協議会												100%											
緊急捕獲	イノシシ 2頭 イノシシ(幼) 2頭 アナグマ 1頭 タヌキ 8頭	-					100%																								
R4	有害捕獲 被害防除	箱わな(大) 6基 くくりわな 20基 わな用受信機 3機 わな用発信機 10機 先進地研修			協議会			100%																							
	緊急捕獲	イノシシ 19頭 イノシシ(幼) 1頭 タヌキ 9頭			-			100%																							

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
南大隅町鳥獣被害防止対策協議会	南大隅町全域	R2	有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料等助成 12人 箱わな(大) 12基 威嚇拡声器(トリサツタ) 3基	協議会	-	R2	100%	令和4年度はヒヨドリの飛来が多く、ヒヨドリについては果樹や野菜における被害が多発していたことから、猟友会と連携し、有害捕獲を行うとともに、威嚇拡声器の設置を行った。また、イノシシ被害については集落の高齢化で荒廃農地が増加し、周辺の飼料作物や水稲への被害が多発していたことから有害捕獲を行うとともに、集落へ箱わなの貸出を行った。これらの取り組みにより、イノシシ、シカ、ヒヨドリの捕獲頭数は大幅に増加している。被害金額は達成していないもののイノシシ、サルは減少している。その一方、ヒヨドリの被害が増えているため、捕獲の強化とより効果的な対策を実施する必要がある。	7.181	10.564	△10%	53	4.4	311%	事業の実施により、被害の防止が図られているが、高齢化が進んでいるため、人材育成等を強化し、集落での被害防止活動を継続して実施したい。	鹿屋大学共通教育センター准教授 藤田 志歩氏	被害面積は減少しており、達成率が311%となっているものの被害金額は基準年から増加している状況である。集落の高齢化等で寄せ付けない対策の効果が得られない状況が見受けられるので、人材育成や総合的な被害防止対策の方法を検討していただきたい。
				有害捕獲														
		有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料等助成 9人 箱わな(大) 12基 箱わな(小) 9基 ドッグナビ 2基	協議会	-	R3	100%											
		緊急捕獲	イノシシ 331頭 イノシシ(幼) 135頭 シカ 31頭 サル 59頭 サル(幼) 2頭 タヌキ 191頭 アナグマ 182頭 ヒヨドリ 100羽 カラス 34羽					-										
		有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料等助成 6人 箱わな(大) 23基 箱わな(小) 20基 ほかバト親機 1基 ほかバト子機 10基	協議会	-	R4	100%											
		緊急捕獲	イノシシ 471頭 イノシシ(幼) 148頭 シカ 121頭 サル 79頭 サル(幼) 12頭 タヌキ 212頭 アナグマ 175頭 ヒヨドリ 2,675羽 カラス 47羽					-										
南種子町鳥獣被害対策協議会	南種子町全域	R2	有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 2人 くくりわな 15基 ヒヨドリ対策実証資材 1式 野生動物調査用センサーカメラ 2基	協議会	-	R2		100%	シカは、くくりわなの貸し出しや狩猟者の増加といった捕獲体制の強化を図ったことにより、被害額および被害面積が減少した。カラス・ヒヨドリについては、実証試験を行ったが、適当な時期を今一度確認し引き続き行う必要がある。	3.670	2.834	153%	101.9	2.7	328%	本町では町境地区を中心にシカ被害が増えているため、捕獲体制の強化を図ってきたため捕獲頭数の増加につながった。近年、カラスやヒヨドリの被害が増加傾向であるため、引き続き鳥獣対策について周知を行っていく必要がある。住民に対して、寄せ付けない取り組みや侵入防止に関する情報提供を行ってきたが、実害の少ない場合が多いため、温度差を感じる現状である。センサーカメラの導入を行っているため、引き続き被害の可視化に力を入れていく必要がある。令和4年度は侵入防止柵を設置し被害対策を講じたところであるが、要望が少ない現状であるため、未然に防ぐ環境整備等に力を入れる必要がある。今後は、捕獲情報や被害情報の可視化に力を入れ、被害防止の重要性に周知していく必要がある。	株式会社 九州自然環境研究所野生動物保護管理室顧問 塩谷 克典氏
				緊急捕獲				シカ 65頭 シカ(幼) 3頭										
		有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 1人 くくりわな 10基 野生動物調査用センサーカメラ 2基 獣ササイズ判別センサー式自動捕獲システム 1基 鳥獣被害対策関連書籍・DVD 1式	協議会	-	R3	100%											
		緊急捕獲	シカ 97頭 シカ(幼) 5頭					-	R4									
		有害捕獲 被害防除	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 1人 くくりわな 10基 カラス被害対策実証資材 1基 先進地視察旅費① 1人 先進地視察旅費② 1人 鳥獣被害対策研修会費 1回	協議会	-	R4	100%											
		鳥獣被害防止施設	金網柵1地区 650m					-	R4									
緊急捕獲	シカ 48頭 シカ(幼) 1頭	-	R4	100%														
屋久島町鳥獣被害対策協議会	屋久島町全域				R2	有害捕獲	協議会の開催 狩猟免許取得事前講習会受講料補助 8人	協議会	-	R2	100%	屋久島町鳥獣被害対策協議会の協議方針に基づき、被害防止対策を充実し、猟友会による捕獲の強化を行ってきたことで、捕獲体制の整備が図られている。また、新規狩猟免許取得者に対し補助を行うことにより、一定の捕獲従事者確保ができています。捕獲活動により平成30年度(基準年度)と令和4年度(目標年度)を比較すると、シカ及びサルの被害金額・被害面積ともに減少しており、鳥獣被害防止として効果が上げられている。令和4年度がヒヨドリ渡りの年でバレイシヨの枝葉やたんかんの果実等、南部地区を中心に大きな被害が発生した。	6.014	17.064	△328%	35.1	18.5	208%
		緊急捕獲	シカ 1,656頭 シカ(ジビエ) 738頭 サル 495頭 タヌキ 315頭	-			R3											
		有害捕獲	協議会の開催 狩猟免許取得事前講習会受講料補助 5人 猟銃所持に係る旅費補助 サル用捕獲器 16基 ジビエ衛生管理研修会		協議会	-		R3	100%									
		緊急捕獲	シカ 2,062頭 シカ(ジビエ) 794頭 サル 718頭 タヌキ 494頭	-			R4			100%								
		有害捕獲	協議会の開催 ジビエ衛生管理研修会		協議会	-		R4	100%									
		緊急捕獲	シカ 1,447頭 シカ(ジビエ) 680頭 サル 486頭 タヌキ 304頭	-			R4			100%								

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価																				
										被害金額(千円)			被害面積(ha)																									
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率																							
喜界町有害鳥獣対策協議会 (喜界町)	喜界町 全域	R2	イノシシ シカ カラス ヒヨドリ	緊急捕獲	シカ シカ(幼) 66頭 1頭	-	R2	100%	緊急捕獲活動支援事業により、シカ、カラスによる農作物への被害が軽減された。 ICTの導入により、従事者の負担が軽減された。	102	41	238%	1.6	0.02	325%	被害は減少してきているが、シカの生息範囲域域化がみられ、頭数が増えている可能性が懸念されるため、引き続き被害対策、捕獲活動を実施し被害の軽減に努める。	(一財)鹿児島県環境技術協会 環境調査部環境生物課専門員 稲留 陽耐氏	事業の取組状況については、推進事業の生息環境管理やICT等新技術の活用で鳥獣捕獲器を導入し、利用率も高い。また、緊急捕獲活動支援事業では、緊急捕獲に取り組み、計画通りの鳥獣捕獲数と達成状況については、目標を大きく超えた達成率となっている。当該事業の取組により目標を十分に達成するなど事業効果は発揮しているが、事業主体では、鳥獣の生息域の増加による被害地域の拡大を懸念している。																				
		生息環境管理 ICT等新技術の活用		生息環境調査 長距離無線式オリワナシステム導入 10基	協議会	100%																																
		緊急捕獲		シカ シカ(幼) 69頭 1頭 カラス 780羽	-	R3	100%																															
		緊急捕獲		シカ シカ(幼) 60頭 1頭 カラス 135羽	-	R4	100%																															
徳之島町鳥獣被害防止対策協議会 (徳之島町)	徳之島町 全域	R2	イノシシ アマミノクロウサギ カラス ヒヨドリ	有害捕獲	オリワナシステム子機 18台 箱わな(大) 13基 アニマルセンサーライト 13基	協議会	R2	100%	緊急捕獲活動支援事業によるイノシシ捕獲頭数が増加したことや、被害防除に関する先進地視察等、研修会により農家の防除意識が高まったことなどからイノシシによる農作物被害は年々減少している。	3,188	1,855	190%	9.3	1.6	294%	平成26年～28年度の本事業の整備事業により侵入防止柵を山間部に設置したことにより、山地から畑への侵入を減少させることができ、一定の効果上げることができたと考ええる。しかしながらいまだに集落地で発生する個体による農作物被害は発生しており、生息域の環境整備等の対策も必要と考える。今後とも実施隊員を中心に捕獲活動に取組み被害の軽減に努めていくとともに、推進事業等を活用し、対策を行っていく。	(一財)鹿児島県環境技術協会 環境調査部環境生物課専門員 稲留 陽耐氏	事業の取組状況については、推進事業の有害捕獲やICT等新技術の活用で鳥獣捕獲器を導入し、利用率も高い。また、緊急捕獲活動支援事業では、緊急捕獲に取り組み、計画通りの鳥獣捕獲数となっている。被害防止計画の目標と達成状況については、目標を大きく超えた達成率となっている。事業主体の評価も高く、当該事業の取組により目標を十分に達成している。																				
		緊急捕獲		イノシシ 366頭 イノシシ(幼) 66頭 カラス 394羽	-	100%																																
		ICT等新技術の活用		オリワナシステム中継機 2基 子機 29台	協議会	100%																																
		緊急捕獲		イノシシ 429頭 イノシシ(幼) 86頭 カラス 77羽	-	100%																																
		ICT等新技術の活用		オリワナシステム子機 25台	協議会	100%																																
		緊急捕獲		イノシシ 355頭 イノシシ(幼) 40頭	-	100%																																
天城町有害鳥獣被害防止対策協議会 (天城町)	天城町 全域	R元	イノシシ カラス	有害捕獲 被害防除 ジビエ等の利用拡大に向けた地域の取組	狩猟免許講習会旅費助成 1人 有害捕獲活動資金 イノシシ 1,000円×4人×362日 カラス 1,200円×4人×362日 鳥獣被害対策研修会 1人 ジビエ活用研修会 2人 獣肉処理研修会 2人	協議会	R元	100%	一部地域においてイノシシによるサトウキビの被害が発生。推進事業を活用しオリワナシステムを導入、猟友会が有害捕獲を行うとともに山際に侵入防止柵を設置。 イノシシを近づけない取組を行いながら、R4年度からは侵入防止柵周辺の生息環境管理にも取り組むことで被害の軽減に努めている。 〈ジビエ活用に向けた取組〉 1 ジビエ販売量あるいは販売金額のいずれか若しくはその両方が前年度の実績を下回った要因と対応一ふらさと寄付金事業の返礼品として定着し全国から受注。ただ、搬入頭数が少なく需要と供給が追いつかない現状である。搬入時の手数料や精肉の販売価格等を含め、今後について検討中である。 2 事業の効果 有害鳥獣として駆除してきたイノシシを資源として活用することで徳之島産リュウキュウイノシシをPRするとともにジビエの普及が図られる。	4,004	250	491%	3.0	0.2	607%	(一財)鹿児島県環境技術協会 環境調査部環境生物課専門員 稲留 陽耐氏	農作物被害は減少傾向にあるものの、捕獲された個体の処理の課題である。R4年度実績で有害捕獲によって捕獲されたイノシシは386頭、そのうち緊急捕獲支援事業の捕獲頭数は346頭。ジビエとして搬入頭数は61頭。搬入個体の増頭対策が急務である。	事業の取組状況については、推進事業の有害捕獲の取組で鳥獣捕獲器の管理やジビエ関連で販売促進に取り組み既存施設の利用率が高い。また、緊急捕獲活動支援事業では、緊急捕獲に取り組み、計画通りの鳥獣捕獲数となっている。被害防止計画の目標と達成状況については、目標を大きくこえた達成率となっている。当該事業の取組により目標を十分に達成するなど事業効果は十分に達成しているが、事業主体では、ジビエの販売拡大に伴い、搬入個体の増加が課題となっている。																				
		緊急捕獲		イノシシ 260頭 イノシシ(幼) 6頭	-	100%																																
		有害捕獲 ジビエ等の利用拡大に向けた地域の取組		有害捕獲活動資金 1,200円×4人×557日 獣肉処理施設PRパンフ作成 1,200部	協議会	R2	100%																															
		緊急捕獲		イノシシ 188頭 イノシシ(幼) 4頭 イノシシ(ジビエ) 70頭	-	100%																																
		有害捕獲 生育環境管理 ジビエ等の利用拡大に向けた地域の取組		有害捕獲活動資金1,200円×4人×1,064日 子機 21基 販売促進研修会旅費 2人 獣肉処理施設PRパンフ 300部 ジビエ活用研修会参加 2人	協議会	R3	100%																															
		緊急捕獲		イノシシ 252頭 イノシシ(幼) 1頭 イノシシ(ジビエ) 74頭	-	100%																																
		有害捕獲 生育環境管理 ジビエ等の利用拡大に向けた地域の取組		侵入防止柵周辺環境整備 1,200円×4人×1,064日 ジビエ活用研修会旅費 2人 獣肉処理施設PRパンフ 1,000部	協議会	R4	100%																															
		緊急捕獲		イノシシ 262頭 イノシシ(幼) 23頭 イノシシ(ジビエ) 61頭	-	100%																																
																			<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">(1) 定量的な事業効果 (ジビエ売上の増進) 単位: kg, 円, %</th> </tr> <tr> <th></th> <th>R元年度販売</th> <th>R4年度販売</th> <th>増減金額</th> <th>増減率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ジビエ販売量</td> <td>1,044</td> <td>824</td> <td>-220</td> <td>79%</td> </tr> <tr> <td>ジビエ販売金額</td> <td>2,107,160</td> <td>1,777,750</td> <td>-329,410</td> <td>84%</td> </tr> </tbody> </table>			(1) 定量的な事業効果 (ジビエ売上の増進) 単位: kg, 円, %						R元年度販売	R4年度販売	増減金額	増減率	ジビエ販売量	1,044	824	-220	79%	ジビエ販売金額	2,107,160
(1) 定量的な事業効果 (ジビエ売上の増進) 単位: kg, 円, %																																						
	R元年度販売	R4年度販売	増減金額	増減率																																		
ジビエ販売量	1,044	824	-220	79%																																		
ジビエ販売金額	2,107,160	1,777,750	-329,410	84%																																		

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価				
										被害金額(千円)			被害面積(ha)									
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率							
伊仙町鳥獣被害防止対策協議会 (伊仙町)	伊仙町 全域	R2	イノシシ カラス	有害捕獲 ICT等新技術活用	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 31人 捕獲遠隔監視機器(観機:1機、子機:6機)	協議会		100%	整備事業により防止柵を設置し、農地への侵入を軽減できた。また、イノシシは増加傾向にあるが、捕獲事業により、捕獲活動を行い、農作物の被害軽減に努めた。	575	453	149%	18	0.4	351%	(一財)鹿児島県環境技術協会 環境調査部環境生物課専門員 稲留 陽耐氏	3年間の推進事業にて新たに狩猟免許を40名以上取得しており、捕獲に従事できる人員が大幅に増員している。一方、新たに狩猟免許を取得した人達の中には、自らの農地を守ることを目的として狩猟期のみ捕獲活動が行われていた。農地を守る目的としては同じとしながらも、猟友会に所属するのとならないのでは負担する費用が大きく異なる。全国的にも捕獲従事者の不足が課題とされる中、伊仙町における免許取得者は貴重な戦力である。そのため、非狩猟期での農地での被害状況を把握しつつ、必要に応じて猟友会への加入を促したり、猟期以外での一般捕獲指示や費用負担が軽減される方策によって新規免許取得者の活動維持が望まれる。 現在の捕獲実績は、数名によるもので全体的な技術向上が課題である。そのため、罠の設置方法等の技術研修を行い、捕獲技術の底上げが必要である。近年、大型囲い農での捕獲がないことから、罠周辺の生息状況を調べたり罠の運用方法へのテコ入れも望ましい。 被害計画の目標は達成できている。一方、イノシシの分布の広がりがや個体数の増加が懸念されている。 被害や捕獲位置を把握して、新たな場所では早期の対策を行い被害の広がりを抑えることが重要である。					
				緊急捕獲	イノシシ 95頭	-	R2	100%														
				有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 10人	協議会		100%														
				緊急捕獲	イノシシ 166頭	-	R3	100%														
				有害捕獲 ICT等新技術活用	捕獲遠隔監視機器導入 子機:24機、中継器用バッテリー一式	協議会		100%														
				緊急捕獲	イノシシ 138頭 イノシシ(幼) 9頭	-	R4	100%														
		五評価 湧水町有害鳥獣捕獲対策協議会 (湧水町)	湧水町 全域	R2	イノシシ シカ サル アナグマ タヌキ	有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 2人 箱わな(小) 2基	協議会			100%	町内全域において、農作物の踏付け等被害が年々増加している。推進事業により箱罠の購入、狩猟免許受講料助成等推進体制を整え、同時に緊急捕獲活動支援事業により猟友会の捕獲意欲を向上させることにより、捕獲頭数は年々増加している。整備事業は、各年度ごとに電気柵、ワイヤーメッシュ柵を設置し、被害拡大を防いでいる。	R3	R4	20%			26	30.3	37%	(合)南九州野生動物保護管理センター 代表 浅井 隆之氏	アンケート等により、被害だけでなく被害の実態が把握できているのであれば、営農形態の違いや対策意欲の違いに応じて、対象に合わせた被害対策の提案や講習会の開催を行っていくと良いと思う。 また、既に侵入防止柵が整備された地区等は、適正な管理をし、被害防止に努める必要がある。
						鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 2地区 1,112m	組合			100%											
						緊急捕獲	イノシシ 179頭 イノシシ(幼) 5頭 シカ 617頭 サル 10頭 アナグマ 47頭 タヌキ 31頭	-		R2	100%											
						有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 5人 箱わな(中) 1基	協議会			100%											
						鳥獣被害防止施設	電気柵(5段)1地区 1,000m	組合			100%											
						緊急捕獲	イノシシ 259頭 イノシシ(幼) 32頭 シカ 689頭 サル 5頭 アナグマ 133頭 タヌキ 48頭	-		R3	100%											
R4	有害捕獲			狩猟免許取得事前講習会受講料助成 6人 箱わな(大) 1基	協議会		100%															
	鳥獣被害防止施設			ワイヤーメッシュ柵 1地区 420m	組合		100%															
	緊急捕獲			イノシシ 371頭 イノシシ(幼) 42頭 シカ 796頭 シカ(幼) 1頭 サル 3頭 アナグマ 174頭 タヌキ 113頭	-	R4	100%															
	有害捕獲			狩猟免許取得事前講習会受講料助成 19人 箱わな(大) 20基 アニマルセンサー 12基	協議会		100%															
	鳥獣被害防止施設			金網柵 2地区 4,520m	組合		100%															
	緊急捕獲			イノシシ 220頭 イノシシ(幼) 1頭 カラス 5羽	-	R2	100%															
再評価 奄美市鳥獣被害防止対策協議会 (奄美市)	奄美市 全域	R2	イノシシ ネズミ カラス ヒヨドリ	有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 4人 カラス生態調査 アニマルセンサー 8基 トレイルカメラ 12台 発信機 20台 受信機 8台 カラス捕獲器 2基 研修会の参加 3人	協議会		100%	令和2年度に箱罠20基・アニマルセンサー12基を購入、令和3年度にはアニマルセンサー8基・トレイルカメラ12台・発信機20台・発信機8台・カラス捕獲器を2基購入し実施隊に貸出し捕獲効率の向上を図った。 また侵入防止柵を、令和2年度には金網柵4,520m、令和3年度には金網柵10,260m・電気柵3段張り330m、令和4年度には金網柵5,920m・電気柵3段張り505mを導入し農作物の被害軽減を図った。 事業を活用した農地については被害が軽減されているが、未だ個体数は多く引き続き被害防止に努める必要がある。	R3	R4	△678%	1.3	5.6	△612%	(一財)鹿児島県環境技術協会 環境調査部環境生物課専門員 稲留 陽耐氏	事業にて侵入防止柵を導入した農地については被害が軽減されたが、被害防止が不十分な場所や今まで被害が見られなかった場所で被害が出ている。 また、H30年度以降はイノシシによる被害が増えている。そのため、捕獲を行う際は錯誤捕獲が発生しないよう対策を講じると共に、発生時の対応手順を事前に作成しておくことが望ましい。 被害防止計画の目標は未達成となっているが、加害鳥獣の内訳を見るとイノシシによる被害を抑えることが課題となっている。 被害発生地の詳細な位置と侵入防止柵の設置位置、捕獲位置を把握することで被害対策効果の検証が必要である。その上で、柵の設置や捕獲活動が行われるよう指示を発出することが重要である。					
				鳥獣被害防止施設	金網柵 6地区 10,260m(うち60m再編) 電気柵(3段)2地区 330m	組合		100%														
				緊急捕獲	イノシシ 93頭 イノシシ(幼) 6頭 カラス 1羽	-	R3	100%														
				有害捕獲	狩猟免許取得事前講習会受講料助成 2人 カラス捕獲小屋新設 1基	協議会		100%														
				鳥獣被害防止施設	金網柵 2地区 5,920m(うち200m再編) 電気柵(3段)1地区 505m	組合		100%														
				緊急捕獲	イノシシ 343頭 カラス 3羽	-	R4	100%														

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主 体	供用 開始	利用 率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額(千円)			被害面積(ha)					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
鹿児島県	鹿児島県	R4	—	実施体制整備 鳥獣被害対策に係るアドバイザーの派遣 7回 人材育成活動 集落ぐるみの研修会 2集落で各4回 指導者育成研修会 2回 狩猟免許取得者の技術向上支援 わな猟初心者技術研修会 12回 わな猟実地指導 20回 ジビエ利用拡大 ジビエ活用研修会(屋久島町) 1回 広域捕獲活動 広域捕獲活動(複数市町村による一斉捕獲の推 進) 4地域で実施(南薩・姶良・伊佐・大隅・熊 毛)	鳥獣被害対策に係るアドバイザーの派遣 7回 集落ぐるみの研修会 2集落で各4回 指導者育成研修会 2回 狩猟免許取得者の技術向上支援 わな猟初心者技術研修会 12回 わな猟実地指導 20回 ジビエ活用研修会(屋久島町) 1回 広域捕獲活動(複数市町村による一斉捕獲の推 進) 4地域で実施(南薩・姶良・伊佐・大隅・熊 毛)	県	R4	—	地域住民が主体となって、寄せ付けない取組や侵入 を防止する取組を効果的に進めるため、鳥獣被害防止 対策の専門家を招聘し、鳥獣の潜み場やえさ場の解消 作業、侵入防止柵の設置や適正な管理方法などを学 ぶ集落ぐるみの研修会の開催や地域における効果的な 鳥獣被害防止対策を推進するため、集落等地域が行う 研修会・検討会へ県登録のアドバイザーを講師として 派遣し、助言・指導を行う各種研修会を実施したこと で、住民が主体となった鳥獣被害対策に取り組む意識 の向上が図られ、農作物被害の軽減に繋がった。	—	—	—	—	—	—	鳥獣被害対策アドバイザー派 遣などによる集落ぐるみの被害 防止研修会の開催や、侵入防止 柵の整備、捕獲対策の強化(ジ ビエの利活用を含む)など、ソ フト・ハード両面にわたる総合 的な対策を行ってきたことによ り、令和元年度から、被害額が 大幅に減少し対策の効果が現れ ている。 令和4年度の被害額は、令和 3年度に比べ約3百万円減少し た。 今後とも市町村、猟友会と連 携しながら研修会の開催や先端 技術(ICT)を活用した罠の導 入促進による有害捕獲の強化を 図るとともに「寄せ付けな い」、「侵入を防止する」「個 体数を減らす」といった3つの 取組を総合的かつ一体的に進め ていく必要がある。	—	—

注1：被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
 2：都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。
 3：事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。
 4：「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。
 5：鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。

5 都道府県による総合的評価

野生鳥獣による農作物の令和4年度の被害額は、ヒヨドリ被害が増加したものの、イノシシやシカによる被害が減少したため、約3百万円減少し、約3.3億円(対前年度比9.9%)となった。
 これまで県が進めてきた①研修会等を通じた集落ぐるみの取組やその指導者の育成、②県鳥獣被害対策アドバイザーの派遣のほか、③農家等の自衛的なわな猟の取組の推進、④侵入防止柵の整備やICT等を活用した捕獲機材の整備、捕獲活動経費などの支援により取組を強化し、今後も市町村等と連携し「寄せ付けない」、「侵入を防止する」、「個体数を減らす」の3つの取組を総合的かつ一体的に推進し、野生鳥獣による農作物被害の軽減に取り組む必要がある。